

令和元年9月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和元年9月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

8月24日に竣工記念式典とこけら落とし音楽フェスが開催された八戸市長根屋内スケート場「YSアリーナ八戸」が、いよいよ9月29日にオープンします。

400mスピードスケートリンクのほか、中地（人工芝コート、多目的コート）やトレーニング室、会議室などを備えており、国内外の大会が開催されるとともに、コンサートやコンベンションなどのイベント会場としても利用できます。

八戸にお越しの際は、ぜひお立ち寄りいただき、スケートや各種イベントなどをお楽しみください。

<開場期間>

スケートリンク 7月下旬～3月中旬

アリーナ 4月上旬～6月下旬

その他 通年

◆「YSアリーナ八戸」の詳細はこちらをご覧ください（市ホームページ）

<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/12,131898,101,html>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

入戸 9月号 レポート

令和元年8月の入戸市内での出来事や
入戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	蕪島地区に物産販売施設 にぎわい創出を目指す
(2)	市みなと体験学習館「みなつ知」 入館者1万人突破
(3)	市が「健康寿命アップキャンペーン」 ～運動で糖尿病予防！～
(4)	武蔵野美大生 入戸の小学校で「黒板ジャック」
(5)	「YSアリーナ入戸」竣工記念式典 こけら落とし音楽フェスも開催

【産業】

記事	概要
(6)	合掌土偶 めくって“発掘” 1万円のメモパッド発売
(7)	VISITはちのへ 日本版DMOに正式登録
(8)	ガスタンクで「氷都・入戸」をPR
(9)	VISITはちのへ英語版サイト開設 欧米豪からの誘客を強化
(10)	恒例「The Best of グルメツアーズ」開催

【地域】

記事	概要
(11)	蕪嶋神社 再建大詰め 来年3月一般公開予定
(12)	「これかわ縄文まつり」開催 土器作りや火おこしを体験
(13)	～行く夏を惜しみ、亡き人をしのぶ～ 新井田川で燈籠流し
(14)	「アハルテケ長谷川牧場」オープン 世界最古の馬種を飼育
(15)	高齢者介護と障がい者自立 両立デイ施設オープン

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	入戸三社大祭 期間中の入り込み過去最多の107万人
(17)	元フィギュア選手・小塚崇彦さんがスケート教室開催
(18)	全国スポーツ流錫馬入戸大会開催 ～人馬一体の妙技で観客を魅了～
(19)	振付家・三東さん主宰のダンスカンパニー はっち開館8周年企画で公演
(20)	「短歌甲子園」 入戸高が初優勝
(21)	夏の甲子園 八学光星4強逃す
(22)	南郷アートプロジェクト 島守地区の風習をダンス映画に
(23)	JOC水泳ジュニアオリンピック杯 白銀小4年の佐々木さん「金」「銀」獲得

【行政】

記事	概要
(1)	<p>蕪島地区に物産販売施設 にぎわい創出を目指す</p> <p>八戸市が整備を計画する蕪島地区の物産販売施設の建設工事が8月中旬に始まった。蕪島に近接する駐車場の敷地内に整備し、木造平屋で建築面積は255平方メートル。建物の外側には回廊部分を設け、回廊の柱にウミネコをイメージした装飾を施す。施設全体は蕪島の海岸風景に調和した色彩やデザインとしている。地域の特産品や土産品の販売、飲食の提供、休憩スペースなどの機能を備え、一帯のにぎわい創出を目指す。オープンは来年4月を予定。</p>
(2)	<p>市みなと体験学習館「みなっ知」 入館者1万人突破</p> <p>「みなとまち八戸」の歴史や文化、東日本大震災の記憶を伝える学習の場として旧八戸測候所を改修し、7月6日にオープンした市みなと体験学習館「みなっ知」の入館者数が8月17日、1万人を突破した。節目の入館者となったのは福島県の相間野貴仁ちゃん(3)で、八戸市に帰省していた両親と共に来館した。同館で記念セレモニーが開かれ、相間野さん一家に証明証と記念品が贈られた。</p>
(3)	<p>市が「健康寿命アップキャンペーン」 ～運動で糖尿病予防！～</p> <p>八戸市の健康増進計画「第2次健康はちのへ21」の普及・啓発を目指し、毎年8月21日に開催している「健康寿命アップキャンペーン」が「はっち」で開かれた。今回のイベントのテーマは糖尿病予防。市保健推進員と八戸の健康まもり隊6期生が作成した糖尿病予防を呼び掛ける合言葉の発表や、栄養士による講話などが行われた。会場ではこの他、体組成や血圧の測定、栄養相談などが行われ、参加者が健康づくりについて関心を高めていた。</p>
(4)	<p>武蔵野美大生 八戸の小学校で「黒板ジャック」</p> <p>八戸市新美術館建設推進室は8月22日、市立中居林小と八戸小で、武蔵野美術大（東京）の学生による美術プロジェクト「旅するムサビin八戸」を実施した。同大の学生が、美術教育普及活動の一環として行っているもので、子どもたちが登校する前に、内緒で黒板に絵を描く「黒板ジャック」が行われた。中居林小では、「金魚」「バラ」「白雪姫」をテーマに、黒板アートを制作。児童は、チョークで描かれた“はかない美”のサプライズ企画に大興奮し、芸術の魅力を実感した。同プロジェクトが八戸で開催されるのは昨年度に続き2回目。</p>
(5)	<p>「YSアリーナ八戸」竣工記念式典 こけら落とし音楽フェスも開催</p> <p>八戸市は8月24日、長根公園内に整備した市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」の竣工記念式典を開いた。午後からはこけら落としの音楽フェス「WORLD HAPPINESS2019 WITH HACHINOHE」が行われ、高橋幸宏さんや榎原敬之さん、ゴスペラーズ、きゃりーぱみゅぱみゅさんから豪華アーティストが出演した。施設の外では、朝市のグルメブースも出店し、約1万人の来場者でにぎわった。また、近くの市中心街は、前日からフェスに前入りした人たちで、飲食店などが混雑し、早くも波及効果が表れていた。同アリーナはスケートリンクだけでなく、多目的アリーナや防災拠点としても活用される見通しである。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p>合掌土偶 めくって“発掘” 1万円のメモパッド発売</p> <p>青森県と大阪の企業が共同開発した“発掘型”のメモパッド「OMOSHIROI BLOCK 国宝合掌土偶」が、8月1日に県内で発売された。メモ用紙を1枚ずつ使うたび、八戸市の遺跡から出土した合掌土偶の姿が現れる。価格は1万円・(税抜き)。少々値は張るが、全ての用紙を使い切った時にも、“お楽しみ”が隠されているという。八戸埋蔵文化財センター是川縄文館、「はっち」1階のカネイリミュージアムショップなどで取り扱っている。</p>
(7)	<p>VISITはちのへ 日本版DMOに正式登録</p> <p>観光庁は8月7日、八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）「VISIT（ビジット）はちのへ」を「日本版DMO」に正式登録した。今回の正式登録により、国の地方創生推進交付金や各種支援が利用できる候補法人段階でのメリットに加え、「世界水準のDMO」の形成促進に向けた支援を受けられる。今後、観光・物産振興に向けた取り組みをさらに加速させ、インバウンド（訪日外国人旅行）の拡大を背景に国が形成を検討する「世界水準のDMO」としての選定を目指す。</p>
(8)	<p>ガスタンクで「氷都・八戸」をPR</p> <p>八戸ガスは、敷地内に設置している球体のガスタンク1基のデザインを一新した。これまでは市民が集う水族館をイメージし、サバやイカを描写していたが、9月29日に市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」が供用開始となることを記念し、スピードスケートやアイスホッケーなどをプレーする人物を描いた。同社は2基のタンクを保有しており、八戸を象徴するデザインをそれぞれ描画している。今回、絵を一新したタンクについては、10年に1度実施している検査工事に合わせ、7月中旬から絵付けに取り掛かり、8月初旬に完成した。</p>
(9)	<p>VISITはちのへ英語版サイト開設 欧米豪からの誘客を強化</p> <p>八戸圏域版DMO「VISITはちのへ」は8月27日、ホームページ「観光・物産情報サイト」の英語版を開設した。英語版サイトは、外国人に八戸圏域の特徴が伝わりやすいように翻訳や表示順を工夫するとともに、外国人向けの宿泊予約サイトのリンク先も掲載している。八戸圏域を訪れるインバウンドの増加を目指し、ターゲットに据える欧米やオーストラリアからの誘客を強化する。</p>
(10)	<p>恒例「The Best of グルメツアーズ」開催</p> <p>八戸市内の飲食店による、毎年恒例の食のイベント「The Best of グルメツアーズ」が、9月1日から10月31日までの2カ月間開催される。今年は「肉」をテーマに、39店舗が参加し、期間中は、全参加店が豪華食材を使った限定メニューを提供する。コースメニューは3800円、ランチは1200円（いずれも税抜き）となっている。地元の食材に親しみ、さまざまな飲食店に足を運んでもらおうと、1988年から開催されている。</p>

【地域】

記事	概要
(11)	<p>蕪嶋神社 再建大詰め 来年3月一般公開予定</p> <p>2015年11月の火災で社殿を焼失した蕪嶋神社の再建工事が、最終段階に入っている。社殿本体の建設はほぼ完了し、外構や内装工事のみとなり、全体工事は12月に終了する見込み。新たな社殿はケヤキや青森ヒバ、南部アカマツといった良質な木材を使用。吹き抜けの天井には5体の天女像の木工彫刻が据え付けられている。総工費は約5億5千万円の見込みで、再建事業には寄付金が充てられ、地元を中心に全国各地から2億数千万円が集まっており、現在も引き続き善意を募っている。新社殿は来年3月に一般公開される予定。</p>
(12)	<p>「これかわ縄文まつり」開催 土器作りや火おこしを体験</p> <p>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館と、分館の縄文学習館で8月18日、恒例の「これかわ縄文まつり」が開かれた。是川石器時代遺跡への興味や関心を持ってもらおうと、八戸縄文保存協会が主催し、今年で24回目を迎えた。市内外から訪れた家族連れが土器作りや火おこし体験などを通じて、楽しみながら縄文時代の文化に触れた。また、縄文土器でサケや野菜を煮炊きした「縄文なべ」も振る舞われた。</p>
(13)	<p>～行く夏を惜しみ、亡き人をしのぶ～ 新井田川で燈籠流し</p> <p>八戸新井田川流燈会の主催で、第43回「新井田川燈籠流し」が8月21日夜、新井田川下流で行われた。今年は雨天のため20日から延期されたが、この日も小雨が降り、半袖では肌寒い天候。午後7時すぎ、塩入橋付近から約1500個の灯籠が流されると、柔らかなだいたいの光が列となって川面を照らしていた。川辺に訪れた近隣住民が、ゆらゆらと流れる灯籠を見送って亡き人をしのびながら、行く夏を惜しんだ。</p>
(14)	<p>「アハルテケ長谷川牧場」オープン 世界最古の馬種を飼育</p> <p>世界最古の馬の品種の一つ「アハルテケ」を国内で唯一飼育するアハルテケ長谷川牧場が8月28日、八戸市内にオープンした。牧場の面積は約21万平方メートルで、広大な牧草地に加え、厩舎やクラブハウスなどを整備。今年5月には初めて子馬の出産に成功し、現在8頭を飼育している。アハルテケは世界で約3千頭しか現存しない希少種。日光を浴びることで、毛並みが黄金色に美しく輝き、訪れた人の目をくぎ付けにしている。</p>
(15)	<p>高齢者介護と障がい者自立 両立デイ施設オープン</p> <p>八戸市で介護事業などを手掛ける池田介護研究所は9月2日、高齢者介護と障がい福祉を総合的にカバーする、新しい形のデイサービス施設「無添加お弁当 二重まる」をオープンした。一般的なデイサービスと異なり、午前中の「お仕事タイム」では弁当作りや弁当の販売、農作業、パソコンを使ったチラシ作製などの軽作業を行い、労働時間に応じて賃金が支払われる。午後は趣味活動や入浴、買い物を職員が支援し、日々の暮らしの充実を図る。収入に結び付き軽作業の提供を通して高齢者の生きがい創出や障がい者の自立を支援するとともに、地域交流の活性化を目指す。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p>八戸三社大祭 期間中の入り込み過去最多の107万人</p> <p>青森県南地方最大の夏祭り、八戸三社大祭が7月31日～8月4日に開催された。今年は週末を含む日程となったため、期間中の入り込み数は107万人で、過去最高だった昨年を上回った。古式ゆかしい雰囲気醸す神輿行列と、豪華絢爛な山車の競演に、八戸市中心部はにぎわいと感動の渦に包まれた。4日の後夜祭には中心街と市庁前市民広場に山車全27台が勢ぞろい。大勢の見物客はライトアップされた山車と「ヤーレ、ヤーレ」の掛け声を楽しみながら、祭りの終わりを名残惜しんだ。一方で山車小屋の確保や引き子や制作者不足も課題となっており、今後も環境整備が求められる。</p>
(17)	<p>元フィギュア選手・小塚崇彦さんがスケート教室開催</p> <p>元フィギュアスケート選手の小塚崇彦さんが講師を務めるスケート教室「Kozuka Academy (コヅカ・アカデミー)」が8月3、4の両日、テクニカルアイスパーク八戸で開かれた。期間中、3日は座学、4日はリンクでの氷上練習を実施。八戸市内外からの参加者20人が、プロスケーターと交流しながら、専門的な技術と音楽に合わせて滑る楽しさを学んだ。同教室はフィギュアスケートの魅力を伝えようと、全国各地で開催されている。</p>
(18)	<p>全国スポーツ流鏝馬八戸大会開催 ～人馬一体の妙技で観客を魅了～</p> <p>全国スポーツ流鏝馬第4回八戸大会が8月11日、八戸市の櫛引八幡宮で開かれた。大会は、南部地方の良馬の産地としての歴史の周知、乗馬人口の拡大を目的に開催。全長約150メートルのコースに三つの的が設置され、一般と上級の個人戦と団体戦でタイムと射抜いた的の合計点で競った。青森県内外から参加した約30人の騎手が、疾走する馬上からの的を目掛けて矢を放ち、人馬一体の妙技で観客を魅了した。また、会場には八戸高専弓道部による弓矢体験コーナーも開設され、多くの見物客らでにぎわっていた。</p>
(19)	<p>振付家・三東さん主宰のダンスカンパニー はっち開館8周年企画で公演</p> <p>世界で活躍するダンサーで振付家の三東瑠璃さん(37)が主宰するダンスカンパニー「Co.Ruri Mito (コー・ルリ・ミトウ)」(東京都)が8月16、17の両日、「はっち」で公演した。三東さんは東京都出身で、スウェーデン王立バレエ団の作品にゲストダンサーとして出演した経歴などを持ち、2017年に同カンパニーを立ち上げた。今回の公演は初の東北ツアーの一環で、はっちの開館8周年企画として開催された。ダンサーたちの繊細な動きで紡ぎ出す独自の世界観が注目を集めた。</p>
(20)	<p>「短歌甲子園」八戸高が初優勝</p> <p>盛岡市で8月18日、全国21校の高校生が短歌の腕前を競う「短歌甲子園」の決勝戦が行われ、団体戦で青森県立八戸高が初優勝を果たした。団体戦は、リーグ戦を勝ち抜いたチームがトーナメント方式で対戦し、審査員が歌の優劣を判定した。決勝戦の題は「咲」で、八戸高1年の平こころさんは「不可能を可能にさせた 汚れた手 無農薬のりんごの花咲く」と詠み、青森の魅力を伝えた。短歌甲子園は2006年に始まり、今年で14回目。</p>